

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-6691  
 住 所 東京都港区芝浦1-1-1  
 氏 名 NREG東芝不動産株式会社  
 代表取締役 井上 辰夫 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	NREG東芝不動産株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市幸区堀川町72-34		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	貸ビル業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,732 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	首都圏事業部ラゾーナ川崎東芝ビル事務所
		所在地	川崎市幸区堀川町72-34
		電話番号	044-540-1161
		FAX番号	044-540-1162
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	2014年度 ~ 2016年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページにて公表しています。 <a href="http://www.toshiba-building.co.jp/building/corporate_outline/environment.htm">http://www.toshiba-building.co.jp/building/corporate_outline/environment.htm</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

**I. 事業者全体環境基本方針**

(1)NREG東芝不動産は、「“かけがえのない地球環境”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、お客様のニーズを尊重して期待に応えられるような、安全、安心、快適な執務環境・生活環境を提供することにより、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで 持続可能な社会へ貢献します。

(2)環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動

- 地球資源の有限性を認識し、商品・サービス、事業プロセスの両面から有効な利用、活用を促進する、積極的な環境施策を展開します。
- 地球温暖化の防止、資源の有効活用、化学物質の管理など、すべての事業プロセスで環境負荷低減に取り組みます。

(3)地球内企業として

- 優れた環境技術や商品の提供、および地域・社会との協調連帯により、環境活動を通じて社会に貢献します。
- 相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

**II. 市内事業所の基本方針**

- 全体の基本方針に則り活動する。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

**環境経営の推進**

- 環境への取り組みを、経営の最重要課題の一つとして位置づけ、経済と調和させた環境活動を推進します。
- 事業活動、商品・サービスに関わる環境側面について、環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止などに関する環境目的および目標を設定して、環境活動を推進します。
- 環境監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
- 環境に関する法令、当社が同意した業界などの指針および自主基準などを遵守します。
- 従業員の環境意識をより高め、全員で取り組みます。

```

graph TD
    A["NREG東芝不動産(株)  
計画管理責任者  
賃貸事業本部長"] --- B["計画推進責任者  
首都圏事業部長"]
    B --- C["技術管理者  
事業推進本部"]
    B --- D["推進担当者  
ラゾーナ川崎東芝ビル事務所長"]
    D --- E["施設管理会社  
NREG東芝不動産ファシリテース(株)"]
    D -.- F["テナント  
(株)東芝ほか"]
    E -.- F
    subgraph "テナント会議"
        D
        E
        F
    end
    
```

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	2013年度	目標年度	2016年度
基準排出量	(実) 3,542 (調) 2,744 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 7,704 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) -117.5 %	削減量	(実) -4,162 t-CO <sub>2</sub>

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	単 位
基準年度の値	目標年度の値
削減率	%
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

当初計画では9,881t-CO<sub>2</sub>となる予定でしたが、入居人員の減少（おおむね1万名から8千名への変更）と、長時間労働削減施策の推進等による運用面での対策実施により、20%（対計画比）の削減を目標（7,704t-CO<sub>2</sub>）に設定しました。

①ラゾーナ川崎東芝ビル  
2013年4月竣工後、2014年1月末に満床稼働となり、2月から本格的にテナント内の博物館部分も稼働を始めました。2013年4月～2014年1月までの使用量は未入居の状態であるため、初年度は使用量が大幅に増加する見込みです。また、新築のため当初から省エネ機器が採用されています。季節ごとの空調管理をスマートBEMSの運用により最適運用を実現します。

②NREG川崎ロジスティクスセンター  
2014年3月竣工後、2014年6月から満床稼働となりました。新築のため省エネ機器が採用されています。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標 (全社目標)

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>(1) ラゾーナ川崎東芝ビル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備 排出量の相互把握を行ない、情報共有体制を維持する。</li> <li>○空調和の管理 ブラインドの管理による負荷の軽減および使用状況に応じた設備の運転時間・温度等の適切な設定を行なう。</li> <li>○空調和設備の効率管理 季節変動に応じて外気導入の調整を行なう。</li> <li>○換気設備の効率管理 二酸化炭素濃度を定期的に測定し、換気量・時間を調整する。</li> <li>○給湯設備の効率管理 季節に合わせて運転を停止する。</li> </ul> <p>(2) NREG川崎ロジスティクスセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の整備 排出量の相互把握を行ない、情報共有体制を維持する。</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

再生可能エネルギー源等の使用については、主として太陽光発電の設置を検討する。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電	規模：250kW+10kW 導入場所：NREG川崎ロジスティクスセンター	平成26年度	予定

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

①ラゾーナ川崎東芝ビル

- ・2013年4月竣工につき主要設備はすべて省エネ機器を採用済み。
- ・建物内でのLED照明導入(竣工時点)99%

②NREG川崎ロジスティクスセンター

- ・2014年3月竣工につき主要設備はすべて省エネ機器を採用済み。
- ・建物内でのLED照明導入率は竣工時点で10%[全照明灯数に対する割合]であったが、竣工後にテナントと協同で99%に改修済み。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

該当なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

①ラゾーナ川崎東芝ビル

- ・廃棄物の減量化・分別化の促進を図る。
- ・屋上緑化および外構植栽の維持管理を適切に行う。

②NREG川崎ロジスティクスセンター

- ・運搬委託者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施要請を行う。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,542	t-CO <sub>2</sub>
(調)	2,744	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k<sub>l</sub> 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
ラゾーナ川崎東芝ビル	川崎市幸区堀川町72-34	6941	不動産管理業	3,496 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 以上 1,500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k<sub>l</sub> 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k <sub>l</sub> 未満	
300~400k <sub>l</sub> 未満	
200~300k <sub>l</sub> 未満	
100~200k <sub>l</sub> 未満	
100k <sub>l</sub> 未満	1

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--